

平成28年度
学校評価

- 1 保護者アンケート
- 2 学校評価（教職員対象）
- 3 学校関係者評価

秋田県立横手高等学校定時制課程

平成28年度 横手高等学校定時制課程保護者アンケート集計結果

平成28年12月20日 回収

生徒在籍数 86名 / アンケート回収数 62名 / 回収率 72.1%

I 学校の教育活動

問1 学校の教育活動について、分かりやすく伝えていると思いますか。	(人)	(%)
1 そう思う	15	24%
2 だいたいそう思う	40	65%
3 あまり思わない	3	5%
4 全く思わない	1	2%
5 わからない	3	5%
無回答	0	0%

問2 子どもの学校生活の様子を伝えていると思いますか。	(人)	(%)
1 そう思う	15	24%
2 だいたいそう思う	38	61%
3 あまり思わない	7	11%
4 全く思わない	1	2%
5 わからない	1	2%
無回答	0	0%

問3 学校は保護者の要望を取り入れていると思いますか。	(人)	(%)
1 そう思う	10	16%
2 だいたいそう思う	40	65%
3 あまり思わない	1	2%
4 全く思わない	1	2%
5 わからない	10	16%
無回答	0	0%

問4 運動会など体育系行事についてどう思いますか。	(人)	(%)
1 このままで良い	47	76%
2 見直して欲しい	4	6%
3 わからない	11	18%
無回答	0	0%

問5 星河祭など文化系行事についてどう思いますか。	(人)	(%)
1 このままで良い	53	85%
2 見直して欲しい	5	8%
3 わからない	4	6%
無回答	0	0%

問6 生徒会活動やホームルーム活動についてどう思いますか。	(人)	(%)
1 今のままで良い	42	68%
2 見直して欲しい	1	2%
3 わからない	19	31%
無回答	0	0%

問7 部活動・同好会活動についてどう思いますか。	(人)	(%)
1 今のままで良い	42	68%
2 見直して欲しい	4	6%
3 わからない	16	26%
無回答	0	0%

問8 ボランティア活動についてどう思いますか。	(人)	(%)
1 今のままで良い	48	77%
2 見直して欲しい	0	0%
3 わからない	14	23%
無回答	0	0%

問9 子どもは授業に対してどんな感想や意見を話していますか。	(人)	(%)
1 どの教科もよくわかる	8	13%
2 わかる教科の方が多い	29	47%
3 わかる教科は少ない	11	18%
4 さっぱり理解できず苦痛	0	0%
5 感想を聞いた事がない	12	19%
6 その他	1	2%
無回答	1	2%

問10 学校は子どものことを理解していると思いますか。	(人)	(%)
1 そう思う	20	32%
2 だいたいそう思う	39	63%
3 あまり思わない	1	2%
4 全く思わない	0	0%
5 わからない	2	3%
無回答	0	0%

問11 学校はいじめや不登校について効果的に指導していると思いますか。	(人)	(%)
1 そう思う	16	26%
2 だいたいそう思う	32	52%
3 あまり思わない	5	8%
4 全く思わない	2	3%
5 わからない	7	11%
無回答	0	0%

問12 整容やマナーについて学校の指導は厳しいと思いますか。	(人)	(%)
1 そう思う	6	10%
2 だいたいそう思う	18	29%
3 あまり思わない	27	44%
4 全く思わない	4	6%
5 わからない	7	11%
無回答	0	0%

問13 学校からの進路情報の提供は役立っていると思いますか。	(人)	(%)
1 そう思う	14	23%
2 だいたいそう思う	34	55%
3 あまり思わない	8	13%
4 全く思わない	0	0%
5 わからない	6	10%
無回答	0	0%

問14 学校は子どもの進路達成に効果的な指導を行っていると思いますか。	(人)	(%)
1 そう思う	17	27%
2 だいたいそう思う	31	50%
3 あまり思わない	4	6%
4 全く思わない	1	2%
5 わからない	9	15%
無回答	0	0%

問15 本校のホームページによる情報の提供をご覧になっていますか。	(人)	(%)
1 よく見ている	6	10%
2 時々見ている	20	32%
3 見たことがない	35	56%
無回答	1	2%

II 家庭教育について

問1 PTA活動に参加していますか。	(人)	(%)
1 毎回参加している	6	10%
2 時々参加している	20	32%
3 ほとんど参加したことがない	35	56%
無回答	1	2%

問2 子どもと学校について話をしますか。	(人)	(%)
1 毎日する	22	35%
2 時々する	34	55%
3 ほとんどしない	6	10%
無回答	0	0%

問3 家庭での子どものしつけについてどう思いますか。

	(人)	(%)
1 厳しい	0	0%
2 どちらかと言えば厳しい	12	19%
3 どちらかと言えば甘い	38	61%
4 かなり甘い	3	5%
5 わからない	9	15%
無回答	0	0%

問4 家庭の学校への協力は十分であると思いますか。

	(人)	(%)
1 そう思う	9	15%
2 だいたいそう思う	20	32%
3 あまり思わない	18	29%
4 全く思わない	3	5%
5 わからない	11	18%
無回答	1	2%

Ⅲ 学校でもっと力を入れて欲しいことなど(自由記述)

<p>(保護者から)</p> <p>学校での様子などの情報量が少ないと思う。</p>
<p>(学校から)</p> <p>行事やお知らせ等については、インターネットのホームページが最もタイムリーだと思います。また、青雲館新聞、生徒指導便り、進路便り、保健便り、年次通信等は成績通知表に同封したり生徒に配布しております。3月には全校生徒の生活体験作文文集や生徒会誌等も発行しますので御覧ください。また、今年度はPTA役員会で「授業以外の生徒の様子も見たい」という要望がありましたので、例年以上に学校行事の御案内のプリントを配布しております。ぜひ御参加ください。</p>
<p>(保護者から)</p> <p>一年次の父兄として、入学後の様子や勉強のこと、クラスでの交友関係についてもっと詳しく話を聞く機会があればよかったですと思っています。年に1度くらい(夏休み中など)は、進路相談や情報交換の場として保護者と担任とで個人面談の機会を設けてもらいたいです。</p>
<p>(学校から)</p> <p>保護者面談は、必要な場合に随時行っていますが、定期的なものを実施するかについては今後検討していきたいと思っています。</p>
<p>(保護者から)</p> <p>今年の文化祭は弟の文化祭と同じ日だったので来ることが出来なかったのが、来年は3年生になるので見に来たいので10月の第3土曜日とかに文化祭をしてほしいなと思いますが、弟とかぶるとどっちもむりなので、出来ればなので。</p>
<p>(学校から)</p> <p>学校祭の日程については、生徒の準備の時間や他の行事との関係を考慮しながら決定しております。</p>

(保護者から)

学生のうちに修得できる資格があれば取らせたい。資料や声かけなどをしてほしい。

(学校から)

本校では英語科と国語科が受験案内を生徒に紹介して全商英語検定と日本漢字能力検定を1年次に全員に受験させています。2年次以降は1年次に取得した資格に応じて、希望者にはその後も受験できるよう案内しています。また、選択科目や商業や情報の授業では、全商簿記検定や全商情報処理検定、全商商業経済検定、全商珠算電卓実務検定、全商ビジネス文書検定などの資格取得に向けて補習も積極的に行っています。

(保護者から)

インターンシップを希望すれば3年や4年でも体験できたらより現実的になると思います。

(学校から)

2年次のインターンシップに加えて3年次以降も職場体験や職場見学を積極的に実施しています。今年度も2年次のインターンシップ先とは異なる職種の職場見学、職場体験を複数回行って就職あるいは進学先の決定に結びつけた事例がありました。とくに就職先を決定する際には必ず職場見学や職場体験を行うよう指導しており、県内外に就職内定が決まった14人全員が行いました。中には自分の適性にあった企業を見つけるために7社もの職場訪問をした生徒もいました。また、職場体験を重ねるうちに即戦力として企業で働くために進学して資格を取得することを企業の採用担当者に進められ、就職から進学に切り替えて進路実現を果たした生徒もいました。いつでも相談したり希望を教えてください。

平成28年度 横手高等学校定時制課程 学校評価 (教職員対象)

回答欄(A:そう思う B:ある程度そう思う C:あまりそう思わない D:思わない E:わからない)

評価項目	番号	質問内容	年度	回答(%)				
				A	B	C	D	E
学校経営	重点目標	1 「一人一人の成長と社会性の育成」という重点指導目標の実現に向けて、学校全体で取り組んでいると思いますか。	H28	46.7	53.3	0.0	0.0	0.0
			H27	62.5	37.5	0.0	0.0	0.0
	重点目標	2 重点指導目標の実現に向けた取り組みは成果が上がっていると思いますか。	H28	6.7	93.3	0.0	0.0	0.0
			H27	31.3	68.8	0.0	0.0	0.0
	教育課程	3 学校の教育課程は、生徒の進路を考えた効果的なものになっていると思いますか。	H28	26.7	53.3	20.0	0.0	0.0
			H27	12.5	75.0	12.5	0.0	0.0
	教育内容	4 学校の教育内容は、生徒、保護者の期待に応えるものになっていると思いますか。	H28	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0
			H27	31.3	62.5	6.3	0.0	0.0
	情報発信	5 学校は学校行事等の校内の活動を、地域に公開しようとしていると思いますか。	H28	53.3	46.7	0.0	0.0	0.0
			H27	68.8	31.3	0.0	0.0	0.0
安全管理	6 学校からの通信や連絡は、確実に保護者に届いていると思いますか。	H28	6.7	46.7	33.3	0.0	13.3	
		H27	12.5	62.5	6.3	0.0	18.8	
安全管理	7 学校は生徒の安全や健康を考えて、必要な対策をとっていると思いますか。	H28	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	
		H27	62.5	37.5	0.0	0.0	0.0	
教職員	8 学校は生徒・保護者の個人情報に関して適切な配慮をしていると思いますか。	H28	53.3	46.7	0.0	0.0	0.0	
		H27	62.5	37.5	0.0	0.0	0.0	
教職員	9 本校の教職員は、生徒の教育に熱心に取り組んでいると思いますか。	H28	53.3	46.7	0.0	0.0	0.0	
		H27	81.3	18.8	0.0	0.0	0.0	
教職員	10 電話や校内での保護者との対応の際、教職員の態度や対応は適切だと思いますか。	H28	53.3	46.7	0.0	0.0	0.0	
		H27	62.5	37.5	0.0	0.0	0.0	
【提言】	<p>○個々の生徒が抱えている問題が多岐にわたり、よく先生方は対応している。</p> <p>○保護者との連携・協力がはかれるように、学校行事等への参加を呼びかけて取り組んでいることはよいことである。今後、保護者の連携をより強力なものにすることによって教育活動が充実すると思う。</p>							
教科指導	授業	11 授業を通しての学力向上は達成されていると思いますか。	H28	6.7	80.0	13.3	0.0	0.0
			H27	12.5	81.3	6.3	0.0	0.0
	授業	12 授業において生徒の興味や意欲を引き出す工夫がなされていると思いますか。	H28	26.7	66.7	6.7	0.0	0.0
			H27	12.5	87.5	0	0	0
	授業	13 生徒は授業に関して満足していると思いますか。	H28	6.7	73.3	13.3	0.0	6.7
			H27	6.3	75.0	12.5	0.0	6.3
授業	14 授業を通じたキャリア教育(チャイムと同時の授業、教科書の準備、指名されたら返事・起立、学習環境等)は達成されていると思いますか。	H28	6.7	73.3	20.0	0.0	0.0	
		H27	0.0	87.5	12.5	0.0	0.0	
授業	15 授業の活性化(多くの生徒への声かけ、活躍できる場の設定、個別指導と全体指導の調和等)は達成されていると思いますか。	H28	33.3	60.0	6.7	0.0	0.0	
		H27	37.5	62.5	0.0	0.0	0.0	
【提言】	<p>○生徒の多様性が年々幅広くなってきている。単位制なので必修であっても、選択できるような教育課程に徐々に変える必要があるのではないか。</p> <p>○多様な学力の生徒が混在する本校では、授業は基礎学力の徹底をはかることを優先させながら、大学進学や公務員を目指す生徒には個別指導で発展的な学力を身につけさせていくしかないと思う。</p> <p>○生徒一人ひとりの理解度を把握し、きめ細かな指導に努めたいと思う。授業の中で生徒が「わかった」という実感をもてるように、さらに指導法などを工夫していきたい。</p>							
生徒指導	生徒指導	16 生徒指導を全職員で、共通認識のもとに取り組んでいると思いますか。	H28	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0
			H27	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0
	生徒指導	17 校内外の集団の決まりを守る指導の成果はあがっていると思いますか。	H28	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0
			H27	37.5	62.5	0.0	0.0	0.0
	生徒指導	18 生徒指導上の事故防止のための指導は適切、効果的に行われていると思いますか。	H28	13.3	80.0	6.7	0.0	0.0
H27			43.8	56.3	0.0	0.0	0.0	
生徒指導	19 「いじめ」に対する適切な調査や指導、対策がとられていると思いますか。	H28	13.3	86.7	0.0	0.0	0.0	
		H27	37.5	62.5	0.0	0.0	0.0	
【提言】	<p>○大きな問題行動もなく学校生活全般が落ち着いてきている。しかし、昼近くに起床するなど基本的な生活習慣が確立されていない生徒も見受けられる。社会人になったときのためにも、在学中に返事やあいさつなどの基本的な生活習慣を身につけられるよう粘り強く声かけしていきたい。</p>							

回答欄(A:そう思う B:ある程度そう思う C:あまりそう思わない D:思わない E:わからない)

評価項目	番号	質問内容	年度	回答(%)				
				A	B	C	D	E
教育相談	20	教職員は生徒の悩みや相談に適切に対応していると思いますか。	H28	60.0	33.3	6.7	0.0	0.0
			H27	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
教育相談	【提言】	<p>○教員のみならず学校職員全員で生徒の悩み等に対応していると思うが、やはり専門的な立場で対応できるスペースイオの学習カウンセラーの先生が青雲館の教育相談の窓口になれば心強い。</p> <p>○OSCIに常駐していただきたい。</p>						
進路指導	21	個々の生徒の進路希望や適性に応じた指導が行われていると思いますか。	H28	40.0	53.3	6.7	0.0	0.0
			H27	56.3	37.5	6.3	0.0	0.0
	22	進路意識や職業観を育てるための指導が適切に行われていると思いますか。	H28	33.3	60.0	6.7	0.0	0.0
			H27	50.0	43.8	6.3	0.0	0.0
	23	学校は進路についての情報を生徒、保護者に適切に伝えていると思いますか。	H28	33.3	60.0	6.7	0.0	0.0
			H27	43.8	56.3	0.0	0.0	0.0
	24	3年間を見通した計画的な進路指導が行われていると思いますか。	H28	26.7	53.3	13.3	6.7	0.0
			H27	25.0	68.8	6.3	0.0	0.0
進路指導	【提言】	<p>○工場見学、キャリア教育等は充実していると思う。ただ、面接練習はやや不足気味である。面接カードを利用するなどの工夫をし、面接練習の充実を図る必要がある。</p> <p>○多様な進路を実現していく中で、とくに大学進学への対応は個別指導によるところが大きい。一方、就職を希望する生徒には基礎学力の定着や面接指導など早い段階での全職員での対応が必要だと思う。また、県内外の求人が好調であるからこそ生徒に挑戦する姿勢を育てていくチャンスだと思う。</p> <p>○進学希望者に対する補習や、定期考査に向けての勉強会など、生徒の実態に応じた指導を行うように努めた。今後も継続できるように努めたい。</p>						
特別活動	25	星河祭などの生徒の活動は充実したものになっていると思いますか。	H28	46.7	53.3	0.0	0.0	0.0
			H27	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	26	部活動を通じた人間育成が図られていると思いますか。	H28	13.3	66.7	13.3	0.0	6.7
			H27	25.0	62.5	12.5	0.0	0.0
	27	部活動の指導の成果は上がっていると思いますか。	H28	13.3	66.7	13.3	0.0	6.7
			H27	25.0	68.8	6.3	0.0	0.0
特別活動	【提言】	<p>○部活動加入を促す取組が必要である。</p> <p>○運動部員数を確保したい。</p> <p>○星河祭がPTAとの協力で年々充実してきていると思うが、文化祭であるという意味から生徒の展示や発表部門の充実が欠かせないと思う。</p> <p>○部活動については、部活動への加入率が低下している中で、ボランティアなどを行う組織へと移行するなどの工夫が必要だと思う。本校の部活動が部員不足という状況にある中、県南大会のあり方も検討する必要があると思う。</p> <p>○このままでは本校の部活動自体がなくなってしまう恐れがある。県南大会の存続にも関わってくるので、加入を一定の数にするための工夫があってもよいと思う。賛否は分かれると思うが、1・2年次生は必ず加入するクラブ活動化するなどの工夫が必要だと思う。</p>						
年次経営 学級経営	28	年次やクラスの指導は生徒、保護者の期待に応えていると思いますか。	H28	26.7	73.3	0.0	0.0	0.0
			H27	31.3	68.8	0.0	0.0	0.0
	29	年次やクラスについての情報は生徒、保護者に適切に伝えられていると思いますか。	H28	20.0	66.7	6.7	0.0	6.7
			H27	25.0	62.5	6.3	0.0	6.3
	30	保護者面談は適切に行われていると思いますか。	H28	33.3	46.7	13.3	0.0	6.7
			H27	31.3	68.8	0.0	0.0	0.0
	31	生徒は学校が楽しいと感じ、生き生きと学校生活を送っていると思いますか。	H28	13.3	73.3	6.7	0.0	6.7
			H27	18.8	81.3	0.0	0.0	0.0
年次経営 学級経営	【提言】	<p>○1年次生の保護者から「学校での様子などの情報が少ない」「入学後の様子等を知りたい」という声がある。保護者面談週間等を設け、半期に一度、全員と面談すべきではないか。</p> <p>○不登校生徒等に対する保護者連絡・面談はよく行われているが、年間最低1回は保護者と面談するようにしてもいいと思う。(学年ごとに時期をずらすなどして)</p> <p>○クラス経営や指導は担任が中心となるが、多様な生徒を抱えると学年全体や学年をこえ全職員で対応することが大切になってくる。そのためには生徒の情報交換をこれまで同様、全職員で共有することが大切だと思う。</p> <p>○II部の場合、平日は時間的に三者面談を行いにくいので、何かよい方法がないか考えている。</p>						
研 修	32	教職員の研修は、適切に行われていると思いますか。	H28	20.0	66.7	13.3	0.0	0.0
			H27	56.3	37.5	6.3	0.0	0.0
	33	研修の成果が自らの向上と教育実践に生かされていると思いますか。	H28	13.3	80.0	6.7	0.0	0.0
			H27	31.3	68.8	0.0	0.0	0.0
研 修	【提言】	<p>○職員研修が精選され回数が減っているが、その分不登校対応など、より実践的な内容の充実を期待する。</p> <p>○アクティブラーニングの研修をして欲しい。</p> <p>○年度当初の研修(生徒情報)は一般論で終わる。特別な支援を必要とする生徒への対応について、具体的な対応方法などスキルアップするような研修を期待する。</p>						

平成28年度 校務分掌等の目標

評価領域	総務部
------	-----

重点目標	総務関連の行事等では、生徒の社会の一員としての意識を高めるように一層の工夫をし、さらに保護者や地域との連携を深める。	P
現 状	防災訓練やボランティア活動等では生徒はしっかりと活動している。保護者や地域と連携した取り組みとしては防災訓練やPTAの諸行事があり、徐々に浸透してきてはいるが、参加者は少ない。	
重点目標達成のための方策	<p>(1) 防災訓練やボランティア活動については、生徒会と打ち合わせを行う等、生徒の積極的な参加の機会を作る。</p> <p>(2) 様々な学校行事の案内を保護者や地域住民にも配布し、アンケートや意見交換の内容をできるだけフィードバックしていく。</p>	
具体的な取組状況	防災訓練については、昨年度の成果を引き継ぎ、より多くの機関を巻き込み、また、生徒が主体的に活動できるように工夫した。保護者や地域住民への学校行事等の案内は例年以上に多く配布した。	D
達成状況	上級生は慣れているということもあり防災訓練では積極的かつスムーズに行動し、終了後の感想では今後に向けての適切な提案等も述べることができた。保護者や地域住民との連携については、若干ではあるが参加人数が増えた行事等もあったが、参加者が固定化する傾向がある。	
自己評価	<p>(評価) B</p> <p>(根拠) 目標達成はなかなか難しいが、さらなる工夫を考えていきたい。青雲館が「開かれた学校」であるためには、こちら側の働きかけや情報発信が大事なのではないかと再認識した。</p>	C
<p>(評価基準) A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
学校関係者評価と意見	<p>(評価) A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練における避難所開設訓練は青雲館と生徒各自の役割を自覚させる貴重な体験となる。また、社会貢献の意識の高揚にもつながる。 ・青雲館新聞は学校の姿をよく伝えている。秋田魁の記事でも青雲館の歴史をつたえている。 ・JR、行政及び地域住民と一体での防災活動は、年々レベルアップしている。町内代表として住民の参加が少なく反省している。避難訓練での役割分担は、明確で一人一人の生徒が生き生きと取り組んでいる。訓練は年2回の実施なので、役割をその都度交代して実践すると大きな効果が期待できる。 ・防災訓練は、保護者、地域住民との連携で参加人数をもっと確保できればもっとよいものになると思う。 	C
評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの保護者や地域住民に青雲館のことを知っていただき、行事等にも参加していただけるように、さらに連携を深め情報発信をしていきたい。特に、防災訓練は、充実したものになるように工夫していきたい。 	A

平成28年度 校務分掌等の目標

評価領域	教務部
------	-----

重点目標	生徒の思考を促す授業展開 「学習課題」を生徒自身が解決していくプロセスを大事にした授業改善 ・疑問詞を用いた追究型学習課題を提示する ・課題解決を支援するための学習活動を工夫する ・提示課題等を用いた振り返りの徹底	
↓		
現 状	様々な学習履歴を持つ生徒が集まっており、授業の構成に工夫が必要である。	P
↓		
重点目標達成のための方策	(1) 教員の指導力向上のために、研修の機会を設ける。(生徒情報交換会、相互授業参観、校内研究授業等) (2) 各期末に、生徒による授業評価を行う。	
↓		
具体的な取組状況	・「本時の目標」「学習課題」「本時の振り返り」のプレートを使用した授業実践。 ・年2回の授業アンケートや相互授業参観等を活用した授業改善。 ・指導主事訪問の1ヶ月前課題にも提案して、各教科での授業改善に関する科会を開き、情報交換を深めた。	D
達成状況	・疑問詞を用いた追究型学習課題を提示することや、本時の振り返りを大切にすることなどを、職員会議や指導主事訪問前の会議等で繰り返し確認しており、着実に定着してきている。 ・重点目標に近づいた授業展開がなされているから、指導主事や管理主事の先生方からも肯定的な感想を得ている。 ・授業アンケートにおいても、授業中に話し合ったり、活動する機会があるという回答や、思考力や技能・表現力が深まり、力がついたという感想が増加している。	
↓		
自己評価	(評価) A (根拠) ・多様な生徒がいるために取り組みが難しい面はあるものの、その取り組み成果は、授業アンケート、指導主事訪問や管理主事訪問、PTAの授業参観等での評価からも確実なものになっている。	C
	(評価基準) A: 具体的な活動がなされ、目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
↓		
学校関係者評価と意見	(評価) A ・授業参観を拝見するに限り、少人数の長所を生かし、わかる授業に取り組んでいると感じた。ただ、板書(黒板の利用)の仕方に工夫があってもよいのではないかと思う。 ・多様な生徒にどう向き合って自立できる生徒に育てたらよいか、難しい課題で有り、最重要課題である。自立心を培わせるというより、まず①無視、②無関心、③無気力的な生徒の態様が変わらない限り、到底自分の目標や学習意欲など湧かないのではないかと感じた。 ・どの教員の指導力も統一しており、向上のための研鑽をしている。	C
↓		
評価に基づいた改善策	・ねらいを意識したグループ活動や生徒同士の学び合い等の授業展開を実践する。 ・学習課題を用いた振り返りをしっかり行うことによって、学習の定着や学習意欲の向上を図っていく。また、振り返りに活用できるような板書の仕方やノートのとらせ方に一層の改善を加えていきたい。	A

平成28年度 校務分掌等の目標

評価領域	生徒指導部
------	-------

重点目標	場にふさわしい服装、行動を心がけるよう指導する。 携帯電話、授業、交通ルールなど、集団の決まりを守って生活するよう指導・援助する。		P
現 状	校内での挨拶はよく行われている。式典時の服装もしっかりしている。 ネットへの無責任な書き込みは行われていると想像できる。(問題として出てくるケースは少ないが。)		
重点目標達成のための方策	(1) 授業、面談、行事、委員会・生徒会・部活動などを通して、教員と生徒の信頼関係の構築する。 (2) アンケート(年度当初、学校生活)、面談(アルバイト、ボランティア、インターンシップ、学業、生活等をテーマとして)等を通して教員が生徒への理解を深める。 (3) 問題が生じた際は、教員単独で対処するのではなく、学年・生徒指導部・管理職との連携を密にし、複数の観点からとらえ、適切な対処を図る。		
具体的な取組状況	必要に応じた面談の実施、教員間での生徒情報の共有が適切におこなわれている。 校内での学年や分掌の連携だけでなく、外部機関との連携もおこなわれている。		D
達成状況	生徒と教員の関係は概ね良好であり、個々の生徒に必要なと思われる指導をおこなっている。そのため、生徒間の人間関係も過去に比べてトラブルが減少している。		
自己評価	(評価) A	(根拠) 生徒理解が図られ、生徒に必要な対応を組織としておこなうことができている。	C
(評価基準) A: 具体的な活動がなされ、目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない			
学校関係者評価と意見	(評価) A	<ul style="list-style-type: none"> ・たまたま学校を訪れた時の生徒の態度には感心する。笑顔でのあいさつ、きちんとした服装など、特に卒業式における生徒の態度には行きとどいた指導が感じられる。 ・近年、18歳から選挙権取得になった。また、少年法の適用年齢を20歳未満から18歳未満へ引き下げることについて議論されている。今後、生徒に人との関わり方、責任ある行動へどう指導すべきか問われていると思う。目標とその評価の基準や達成法など見当がつかない。 ・人間関係の構築のための工夫と必要な対応を行っている。 	C
評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部、特別活動部と連携して、ボランティアやインターンシップへの積極的な参加を勧め、社会における人との関わり方や責任ある言動についての意識を高めさせる。 ・ネット安全使用について、情報の先生方と連携して、講話などを実施する。 		A

平成28年度 校務分掌等の目標

評価領域	進路指導部
------	-------

重点目標	集団の一員としての自覚を持ち、進路実現のために1年次は将来について具体的な展望を持ち進路目標を明確化する。2年次は進路目標の達成に向けて計画的・継続的に取り組む。3・4年次は進路目標の達成に向けて実力養成に取り組む。		P
現 状	積極的にアルバイトやボランティアに取り組み、社会性を身につけていく生徒がいる一方で、同世代や大人とのコミュニケーションの取り方に苦慮している生徒もいる。また、進路実現を自分のこととして受け止め計画的に取り組める生徒と、具体的な進路目標を見いだせずにいる生徒もいる。		
重点目標達成のための方策	(1) アルバイトやボランティア、資格取得に積極的に取り組む環境づくりを行う。 (2) 大学進学を希望する生徒への朝補習や長期休業中の継続的な学習指導を行う。 (3) インターンシップにとどまらず、3・4年次でも希望する職種に職場体験を積極的に行う。		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の卒業予定者全員と個別面談を行い、現時点での進路希望の状況把握に努め、担任、家庭との連携を図った。 ・職場見学の積極的な奨励、ハローワーク、他校の進路指導担当者の情報交換を積極的に行った。 ・大学進学、公務員希望者の朝補習や長期休業中の継続的な学習指導を行った。 		D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・就職希望者は職場見学、職場体験をすべて実施して、希望進路の実現に結びつけている。進学希望者も進学先のオープンキャンパスに必ず参加した。 ・他校や行政機関との連携を積極的に行い、就職・進学ともよい結果につながった。 		
自己評価	(評価) A	(根拠) 大学進学1名の進路が未定だが、進学希望者9名、就職希望者14名の合格、内定が決まっている。就職内定者はすべて正社員の希望進路を実現している。	C
(評価基準) A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない			
学校関係者評価と意見	(評価) A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と教師のコミュニケーションを深め、その生徒に即した進路指導は高く評価できる。 ・青雲館の諸先生方に対しての感謝の気持ちで一杯です。 ・自己実現のためのステップを計画的・継続的に取り組み、結果が出ており素晴らしいと思った。 	C
評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の採用担当者からは「青雲館の生徒は真面目だが意見を言えない、自己主張できない」と言われることが多い。例えば新聞記事を切り抜いて感想を書く新聞スクラップを次の段階として、まとめた記事を発表させるなど新たなチャレンジを試みる時期に来ていると感じる。 		A

平成28年度 校務分掌等の目標

評価領域	特別活動部
------	-------

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の活性化を図り、生徒会が多く関わられるように計画する。 生徒一人ひとりが学校行事に積極的に参加し、充実感や達成感を味わう。 部活動の加入率を高め、部活動を通して自信や友情を育み、積極的に人間関係を構築しようとする態度を育成する。 	P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事が生徒主導で計画・実施されているとは言い難い状況にある。 部活動の加入率は低く、大会では選手起用に苦慮し掛け持ちの生徒もいる。 	
重点目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 生徒会執行部と月2回（1日・15日）の定期的な会合を計画し、情報交換しながら生徒の意見を取り入れ、より生徒が活躍できる計画を立案する。 生徒会執行部および各クラスの委員長や副委員長も含めた拡大した生徒会の編成を計画し、クラスの意見も反映されるよう配慮していく。 各種行事の後にアンケートを実施し、反省や意見を確認する。 学校行事を生徒主体で、計画から準備、実行まで任せる。（成功や失敗も多く経験させる） 	
具体的な取組状況	<p>生徒会活動については、月2回程度の会合を実施し情報交換を積極的に行った。星河祭では生徒会長を中心に計画したことが予定通り実施され成功裏に終わった。また、多くの行事で生徒会が先頭に立ち司会進行や運営まで関わった。</p>	D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動は多くの生徒が関わられる計画を心がけ積極的、自発的に活動できるようになってきている。また行事後の充実感、達成感を味わうこともできた。 	
自己評価	<p>(評価) A (根拠) 受け身の消極的な生徒が自覚や責任を持つことで積極的に活動できるようになり、行事後には十分な充実感、達成感を味わっていることが評価できる。(失敗しても諦めず継続的に活動してきた)</p>	C
<p>(評価基準) A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
学校関係者評価と意見	<p>(評価) A</p> <ul style="list-style-type: none"> 星河祭、かまくら体験は開かれた学校の好例であり、地域とのつながりは生徒の社会性を育てていると考える。生徒の生き生きとした行動には感動を覚える。 生徒会活動への積極的な参加を通し、生徒が充実感、達成感が得られるよう工夫がされている。 	C
評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> 星河祭、かまくら体験など地域とのつながりを大切にし、社会性の育成を図ることができるよう、様々な実体験ができる仕組みを生徒会と一緒に構築させていきたい。 	A

平成28年度 校務分掌等の目標

評価領域	保健部
------	-----

重点目標	生徒一人一人が基本的な生活習慣を身につけ、健康について自己管理する能力を養う。	
現 状	昨年行ったライフスタイル調査より、生活習慣が不規則な生徒が多いことがわかった。また、小中学校で不登校だった生徒が多く、大変繊細な心を持っているため、些細なことで傷つき、悩んでしまう生徒も多い。心身ともに健康的な生活を目指した取り組みが必要である。	P
重点目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> (1) 健康診断の事後指導や、ほけんだより等で保健情報を多く発信することにより、健康に関する意識・関心を高める。 (2) ライフスタイル調査を継続して実施し、日頃の生活習慣を振り返る機会とする。 (3) 保健関係の講話等を計画し、基礎知識を身につけさせる。 (4) 教職員、スクールカウンセラーとの連携を密にし、多様な生徒に対応する。 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ①ほけんだよりを発行し、保健情報を多く提供する。今年度から職員用も発行した。 ②ライフスタイル調査を実施し、結果を分析。11月はいい生活習慣強化月間として取り組んだ。 ③外部講師を招き、薬物乱用防止教室、心の健康教室、性教育講座、救急救命講習会等を実施。 ④日頃から職員間で情報の共有を図りながら、スクールカウンセラーとの面談も有効に利用し、生徒の対応にあたった。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ①健康について少しでも意識してもらえよう工夫し、規則正しい生活習慣等の記事を多く盛り込んだ。 ②大きな改善とまではいかないものの、生活習慣を見直す機会を作ることができた。 ③熱心に講話を聴く生徒が多く、健康についての意識を高めることができた。 ④支援が必要な生徒について、協力して対応することができた。 	
自己評価	<p>(評価) B</p> <p>(根拠) 多方面からご協力をいただき、様々な場面で心身の健康問題に気付き、自ら解決していこうとする意識付けはできたのではないかと思う。しかし、生活習慣については改善が必要な生徒が多く、今後も継続した呼びかけ・取り組みが必要だと感じる。</p>	C
<p>(評価基準) A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
学校関係者評価と意見	<p>(評価) A</p> <p>・生活習慣を身につけることの必要性を理解し、健康についての自己管理能力の向上についても意識付けできている。</p>	C
評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣についての調査を行い、生徒理解を深めて指導に役立てる。 ・外部講師による保健関係の教室・講話等を実施して、健康意識を喚起する。 ・日々の声かけや保健に関する情報提供を継続的に行い、規則正しい生活習慣の確立を目指す。 	A

平成28年度 校務分掌等の目標

評価領域	研 修 部
------	-------

重点目標	校内外における研修の充実を図り、生徒理解の促進と指導力の向上に努める。	
↓		
現 状	不登校を経験した生徒、発達障害および診断は受けていなくとも何らかの障害の特性がみられる生徒、さらに転編入生等、多様な生徒が在籍し、個々に様々な課題を抱えている。学力面、作業面における個人差も非常に大きい。生徒への指導にあたっては様々な工夫が求められる。	P
↓		
重点目標達成のための方策	(1) 生徒情報を理解・共有することで、生徒指導に生かし、自己肯定感・有用感の育成に生かす。 (2) 授業参観・研究授業・協議会を通して、授業改善に生かす。 (3) 選挙年齢の引き下げに伴い、主権者教育の充実について職員の共通理解を図る。	
↓		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修 第1回：生徒情報交換①（新入生・転入転籍生） 第2回：生徒情報交換②（2年次以上） 第3回：特別支援〈事例検討〉 授業研修 相互授業参観…第1回：5月 第2回：11月 研究授業…第1回：理科（7月） 第2回：商業・英語・数学（10月） 『生徒情報』、『発達障害を有する生徒への有効な支援、配慮事項』の配布（4月） 『研究紀要 第11号』作成中 	D
達成状況	職員研修、授業研修ともに他分掌等と連携しながら計画的に実施することができ、生徒指導に役立つ研修ができた。	
↓		
自己評価	(評価) A (根拠) 取組の達成状況から、概ね目標は達成できたものと思う。	C
	(評価基準) A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
↓		
学校関係者評価と意見	(評価) A <ul style="list-style-type: none"> 職員が一人で悩まず、分掌、学年を通して問題を共有し、生徒に還元するという観点から、研修部は大きな役割を果たしていると思う。 日々の指導における研修を通し、職員一人一人が個々の生徒理解ができている。 	C
↓		
評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒への対応や発達障害への支援について実践的な研修を行う。 生徒情報を共有し、より実践的な対応ができる準備態勢を作る。 	A

平成28年度 校務分掌等の目標

評価領域	図書視聴覚部
------	--------

重点目標	学校からの情報発信の場として「図書館」を活用させる。	
↓		
現 状	読書を楽しむ生徒の数は増加してきている。また、授業でも図書館の資料を活用する機会が多い。しかし昨年度、国語の課題としていた「本」の紹介等は提出できたが、他の生徒への紹介までは至らなかった生徒もいた。	P
↓		
重点目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> (1) 国語の課題として「本」に関する欄を継続して設ける。 (2) 進路スクラップ作成を通して、読む人にとって分かりやすい文を書くようにさせる。 (3) 「青雲館新聞」に「本」に関する欄を設け、国語の授業で記事を作成させたり図書委員、出版委員に記事を作成させる。 (4) 「本」に関する紹介等を図書館やホールに掲示する。 	
↓		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> (1) 冬休み新聞（課題）の中に、「本」に関する欄を継続して設定している。 (2) 進路スクラップは継続して実施している。 (3) 「青雲館新聞」に本の紹介を掲載している。 (4) 今年度の新着図書の紹介を図書館前廊下に掲示した。 	D
達成状況	(1)、(2)については継続して実施中である。冬休み新聞は図書館に置くことにより生徒が情報を共有できる。(3)、(4)は今年度実施できたが、年度末まで継続することが必要である。	
↓		
自己評価	<p>(評価) B</p> <p>(根拠) 新聞スクラップ作成に取り組むことで、厭わずに「本」の紹介文を書く生徒が少なからず存在している。今年度の新着図書を紹介することで、生徒の図書館利用の機会も増加したようである。情報共有から、一歩先の発信を目指して、具体的な取り組みを継続したい。</p>	C
<p>(評価基準) A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
↓		
学校関係者評価と意見	<p>(評価) A</p> <p>・もっと多く図書館の活用がされ、生きる力のヒントを図書から学んで欲しい。</p>	C
↓		
評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書点検のあり方と貸し出し状況、貸し出し方法を検討し、授業でも、生徒個人でも活用しやすい図書館作りを考える。 ・新着図書やお薦めの図書の紹介を増やす。 ・授業での視聴覚作品の利用を増やす。 	A

平成28年度 校務分掌等の目標

評価領域	スペース・イオよこて
------	------------

重点目標	イオ・よこてへの理解を深める発信をする。 生徒のニーズに応じた適切な支援と指導の充実を図る。 イオの活動を通して、定時制とイオとの連携を図る。	P
現 状	昨年からの継続入所の生徒が1名に前期は更に2名の生徒が入所した。初めは、消極的な姿勢の生徒もマンツーマンで丁寧に指導してもらえるので、イオでの学習は楽しいという声が聞かれる。今年度も充実した指導を継続していきたい。	
重点目標達成のための方策	(1) 通信等をホームページにアップしたり、外部関係諸機関に送付したりする。 (2) 生徒のニーズや気持ちを大事にした適切な支援をする。 (3) 定時制の先生によるゲストティーチャー授業を通して様々な人と関わったり、協力したりしながら、主体的に問題解決をする姿勢を強化する (4) レザークラフトアンケート（→作品をプレゼントする）の実施により、周りから感謝される体験をすることで、自信をつけるとともに、自己肯定感、自己有用感を育む。	
具体的な取組状況	後期になり生徒数が増えてきたが、普段の授業はほぼマンツーマンで指導しており、生徒の実態に応じて対応しているため、基礎学力はついてきている。ほぼ全員が受験生であり、在籍中学校から依頼された実力テスト対策の指導→実施→テスト直し等、今まで、継続してきた指導方法で進路に向けて頑張らせている。	D
達成状況	達成のための方策は全て実施できた。特に（2）は在籍中学校と連携しながら、適切な支援をすることで、生徒の学力を向上させたり、在籍中学校に復帰させたりすることができた。	
自己評価	(評価) B (根拠) 重点目標のイオ・よこてへの理解を深める発信が今年は新しいことをしていないため。 方策（3）の主体的に問題解決をする姿勢を強化するについては、生徒の気持ちを読み取り、指導者からの支援は極め細かくできたが、生徒が主体的に動く姿勢を強化できなかった。	C
(評価基準) A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	(評価) A ・生徒が主体的に動く姿勢の強化は難しいと思うが、期待している。	C
評価に基づいた改善策	・イオの教育活動（学習支援やSST、定時制の先生によるゲストティーチャー授業、レザークラフト等）を通して、生徒の実態とニーズに応じた指導を粘り強く、継続して行い、学力や対人関係スキル等を向上させることで生徒が自信をつけ、主体的に動く姿勢を強化する。	A